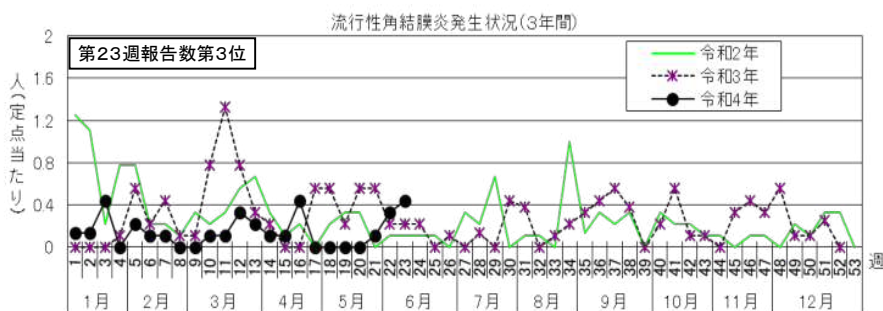
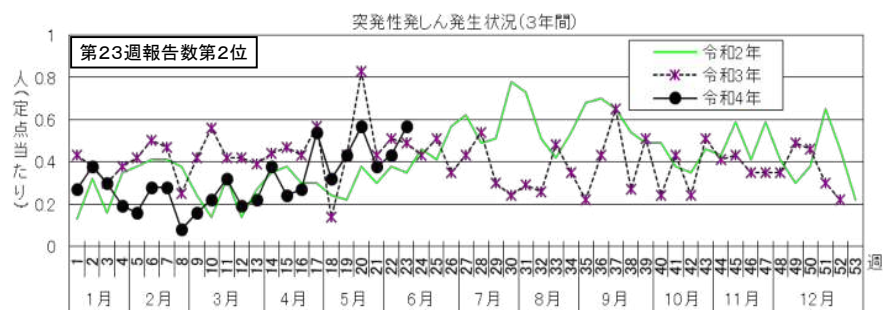
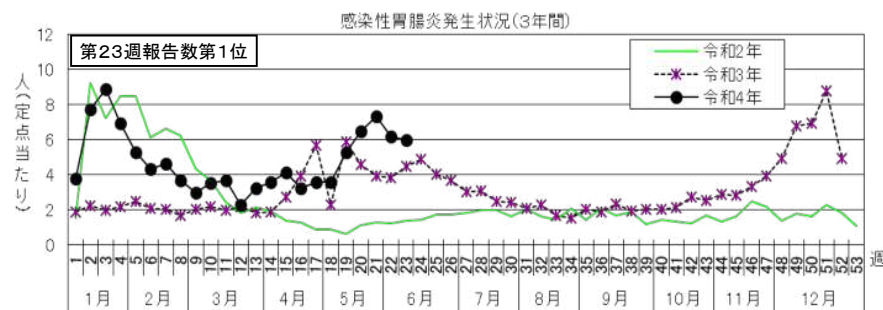


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月6日（月）～令和4年6月12日（日）〔令和4年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん 3）流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.97人と前週（6.16人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.44人と前週（0.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



気を付けたい感染症～流行性耳下腺炎～

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、ムンプスウイルスを原因とし、両側又は片側の耳の下の腫れや痛みを特徴とする全身性感染症です。通常は1～2週間で軽快しますが、髄膜炎や難聴などの合併症を伴うことがあるため、任意接種ではありますが、ワクチン接種による予防が推奨されています。

流行性耳下腺炎は、数年毎に流行する傾向があり、直近では平成28年に大きな流行がみられました。近年は新型コロナウイルス感染症の流行により報告数が減少していましたが、川崎市における報告数は令和4年3月下旬から徐々に増加し、令和4年第23週（6月6日～6月12日）は定点当たり0.11人となりました。今後の流行状況に注意が必要です。

流行性耳下腺炎とは？

【感染経路】

唾液などによる飛沫、接触感染

【潜伏期間】

2～3週間（平均18日前後）

【主な症状】

両側又は片側の耳の下の腫れや痛み、発熱
※感染しても症状の出ない人（不顕性感染）が30％程度

【合併症】

無菌性髄膜炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴
※特に妊婦では感染すると自然流産することもあり



流行性耳下腺炎と難聴について

流行性耳下腺炎の合併症であるムンプス難聴は、1000人に1人の割合でみられます。難聴は治療が難しく、平成27年から平成28年には少なくとも348人が難聴になり、300人近くの方に後遺症が残ったと報告されています。

川崎市における流行性耳下腺炎の発生状況 ～平成24年第1週～令和4年第23週～

